

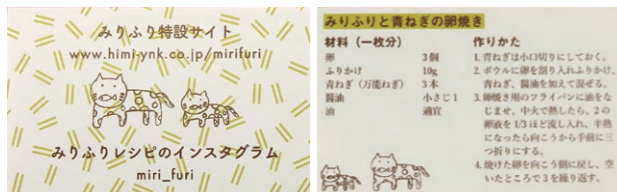
水産加工会社が積極経営に乗り出し、
「ハズレ」な素材を当たりの商品に！

有限会社 中村海産

- ▶ 支援内容
- ✓ ものづくり補助金(国)申請支援
 - ✓ 専門家派遣事業
 - ✓ 地域資源活用事業



ハズレのシシャモと富山県産のえごま、ゆず、県内で加工された昆布を用いたふりかけ「みりふり」。中身は専門家派遣事業、パッケージは地域資源活用事業を活用して、開発が支援された。山椒風味は、お酒のおつまみにも合うとか。



「みりふり」3袋詰め(えごま、ゆず、山椒)の箱に同梱される、みりふりを使ったレシピの紹介カードの1つ。

氷見市では、水産加工業者がそれぞれ^{ほしぼ}干場(魚介類を干すための作業場)を持ち、かつては百力所を優に越えていた。ところが近時は、その数は二十数力所までに減り、特産のみりん干しや干物を県外にも販売しようと販路開拓に努めるところはさらに少なく、ほんの数社になってしまった。

その1社が、ここに紹介する中村海産。中村雅宏社長の長男・康紀氏がUターンしたのを機に、将来を見越して設備の更新や新商品の開発に乗り出した。

「2012年のことです。Uターンして間もない頃、高岡のテクノドームで行われた商談会に参加しました。その時、社長がかねてからいろいろ相談していた富山県中小企業団体中央会の担当者がブースを訪ねてくださり、設備の更新について相談してみたのです。するとその担当者は、ものづくり補助金のことと、『その申請の相談は新世紀産業機構にしたらよい』とアドバイスしてくださり、後日さっそく訪ねてみたのです」

中村海産で営業を担当し、事業の承継を念頭に置きながら家業に邁進する中村康紀氏は、当機構との接点を持ち始めた当時のことを昨日のここのように語り始めた。そして申請書作成の指導を支援センターのマネージャーから受けて、翌年度の採択となった次第。廃業が相次ぐ氷見市の水産加工会社にあつて、積極経営に舵を切ったのだ。

「ハズレ」のシシャモを活かしたい

その後、時々当センターを訪れるようになった康紀氏。目前の経営課題をマネージャーに相談し、アドバイスを得るように。そうして2017年に入った時。みりん干しの出荷量が年々減る中で原料の魚が高騰し、利益率が悪化するようになったのだ。

「その時私は、みりん干し用に仕入れているカラフトシシャモのことを思い出しました。作業工程で、シッポが欠けたりしたシシャモは、我々は『ハズレ』と称して、一部は焼いて

商品化しましたが、大半は産業廃棄物として処分していました。お金を払って買った原料を、お金を払って廃棄していたのです。こんなもったいないことはない。これを活かすことはできないかと思い、旧知のマネージャーに相談してみたのです」(康紀氏)

その結果、専門家派遣事業を活用して専門家を招き、ハズレや他の魚介類も用いて商品開発を進めることに。富山県出身で(つまり富山の食文化がわかる)、東京で活躍するフードコーディネーターを招いての、新商品の開発に乗り出したのだ。

康紀氏が振り返る。

「最初はふりかけの他に、氷見産のイワシやハタハタも原料にし、コンフィや塩麹漬けなども開発する計画を持っていましたが、ふりかけの試作とレシピの改良だけでも時間がかかったので、ふりかけ1点に絞ることにしました」

シシャモの量、他の食材との組み合わせや使用量、あるいは調味料の使い方などは、専門家の指導を受けながら改良し、食品添加物を一切使わないふりかけの開発を目指した。そうして、えごま風味の基本的なふりかけのレシピが完成し、それをアレンジしたゆず風味、山椒風味ができて上がったのは

2018年2月のこと。専門家はそこに販売に当たってのイメージやパッケージデザインの方向性、ふりかけを使ったおかずレシピの開発等を提案し、7カ月にわたる指導を終えた。

子どもに親しみやすいパッケージに

続いて同社では、2018年度に入って地域資源活用事業の採択を受け、パッケージデザインの開発などに着手。子どもも手に取りやすいようにと「お魚くわえたらネコ」をイメージし、ケースの中にはふりかけに付ける同社の思いを記したしおりや、ふりかけを利用したおかずのレシピカードも入れることを企画し、デザイン事務所の協力を仰いだ。

その結果できたのが、左頁で紹介するパッケージやケース、レシピカード等々。ハズレのシシャモも商品として日の目を見るようになり、世にいう「フードロス」対策の一品となった次第だ。

元号が新しくなる2019年度は、「新商品を手に商談会などに積極的に参加したい」と康紀氏は意気込みを見せるとともに、「今度は麹を使った水産加工品の開発にも取り組みたい」と抱負を語るのであった。



同社の主力商品
みりん干しなど。



ものづくり補助金の支援を受けて生産ラインを更新した同社の作業場。



同社の社屋。



中村海産で営業や商品企画を担当する中村康紀さん。

PROFILE

所在地 氷見市伊勢大町2-13-5
 代表者 中村 雅宏
 資本金 800万円
 従業員 30名
 事業 各種みりん干し、
 塩干物等の製造販売
 TEL 0766-72-0596
 FAX 0766-74-5723
 URL http://www.himi-ykn.co.jp/